

今回のゲスト

作家

# 水野敬也

190万部を突破したベストセラー『夢をかなえるゾウ』で話題をさらった水野敬也さん。最新作『四つ話のクローバー』をはじめ、自らが挑み続ける“変身”のエピソードなど、たっぷりうかがいました。

# え、それって どういうこと?

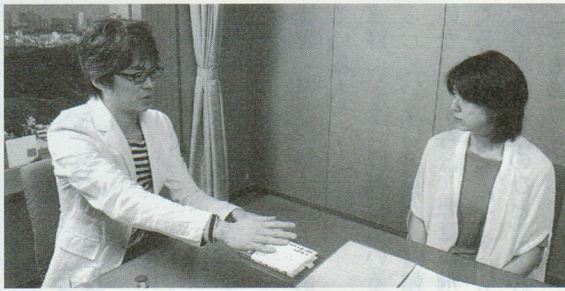


活字にしかできないことってあるんです  
それは1対1で語れるということ  
1対1のサシのトークって、  
なにかを伝えるうえで  
最も適していると思うんです

## 今回の聞き手 進藤晶子

「しんどうまこと」  
71年9月10日生まれ、大阪府出身。  
フリーキャスター。著書に、本誌  
連載をまとめた「出会いの先に」  
(小社刊)がある。ホームページは、  
<http://www.shindomasako.net/>





↑「モテない服装から脱却するため、ファッションをガラリと変えたこともあります」と、水野敬也さん。

進藤 うゝむ、水野さんってオシャレさん！

水野 いや、そうでもないですけど。ただ最近ちょつと色気づいてたりはしますね、正直言つて(笑)。一時期は僕、服がむしろあまり好きじゃなくて。

進藤 あら。

水野 僕、人生をいきなりガッツと変えるのが大好きなんです。それで1年くらい前に裏原宿に事務所をつくらうと思いついて。

進藤 事務所を、ですか？

水野 そのころから、服もちょっとずつ色気づいてきたんです。そして色気づこうと思うと今度は全部環境を変えていきたいタイプなので。突然、ヒップホップダンスを習つてみたり。

進藤 へええ〜！

水野 でも、さすがに慣れなくてですね。年下の女性ダンサー

から「おお、スジいいじゃん」って言われると、ちょつとついていけないかもな〜って、それはやめちゃったんですけどね。

進藤 アハハハ！

水野 いきなりお酒を4年間やめたこともありました。それは、この1〜2カ月前くらいから、また飲みはじめたんですけど。

進藤 飲まないで決めたなら、とことん飲まない。いままでにガラリと変えたことって、ほかにもおありになるんですか。

水野 ありますね。ちょつとひくような話かもですけど。

進藤 むしろ聞きたい(笑)。

水野 いちばん変わったのは、17歳くらいのとき。中学高校時代は男子校で、女性にモテなかつたんです。それで17歳という受験の時期に、人生を変えようと思つたんですね。だけどまわりにはいるのはゲームおたくばかり。それで「申し訳ないけど今日からオレは大学デビューをめざしたい。スマン！」って。

進藤 なにがスマン？

水野 「ちょつと距離を置かせてもらおう」と。

進藤 え、交流を絶つた？ お友だちは理解してくれました？

水野 そのときは「アイツは変わ

わつちやつたね」って言われませんでした。結局そのあと1年経つて、またいっしょに遊ぶようになったら修復できたので。そのときに結構思い切つてやつても、あとからリカバリーできるものなんだとわかりました。

進藤 それが初チェンジ。大学デビューはどうなつたんですか。

水野 ツラかつたんですけど、結果的にはうまくいきました。僕とはとにかくイケてたいというのがあつて。だから大学でイケてる先輩を見つけては「すごいイケてますね！」って。

進藤 声をかけるの？

水野 「僕もイケていきたいんですけど」って。気味悪がられますよ。ツラかつたですよ。

進藤 大きくチェンジされると、4年続いた断酒みたいに長いんですか。

水野 ものによりますね。お酒の場合はやめられたんです。いろんな人から「遊びを知らないやつがモノを書けるのか」と言われたり。でも一度とことんやめてみようと思つたんですが、途中で考えが変わつて、やつぱり飲んだほうがいいかもということ、また飲むようになったんです。ま、いまではお酒はやめ

ないほうがいいって僕は思つてるんですけど。

進藤 それはどうして？

水野 結局、人間はお酒が好きなんです。それをやめることは自分を抑圧することじゃないですか。自由に活動するスタイルの仕事の場合は、それが精神的に苦痛になることもあるので。一切、やめる必要はないといまでは思いますけどね。

進藤 そうやってなにかを変化させることで、新しい引き出しを増やしてこられたんですね。

水野 やつぱり経験してわかることってすごく多くて。というか、経験からではかものは学べないと思うんですよ。

僕は日本一、発売前に人に読ませる作家です

進藤 今回「四つ話のクロバ」を書かれるきっかけはなんだったんですか。

水野 僕はエンターテインメントというもの、マンガやゲームも大好きなんですけど、でもやはり現実でこそ感動を味わうべきじゃないかという思いもあるんで、作品にはどうしても具体的な教えを入れたくなる。つまり、それが実用性ですよ。

進藤 ふむふむ。

水野 普通はそういうことを直接言うのはヤボだつて言うけど、僕はどうしてもそつちにいきたい。いまのビジネス書や自己啓発書もヤボというか、もつていて恥ずかしいとかカッコ悪いものが多いじゃないですか。たとえば恋愛マニュアル本をもつていたらもう、その時点でコイツだめだなんて思つちゃうでしょ。

進藤 ふふふ。

水野 だから、そここの摩擦ですよね。現実を変える大切な考えかたなんだけど、でもそれをストレートに言えば言うほどヤボになる。そこをどうおもしろく見せられるのになつてことなんです。それを『夢をかなえるゾウ』ではああいう形で表現したんですけど、今回は短編の物語にすることでまた違う見せかたで教える読者に伝わるような作品にできると思つたんです。

進藤 4話の短編小説で構成されていきますね。

水野 30話近く書いたんですけどね。それをいろんな人に読んでもらい、ほんとうにおもしろくていいと言われたものの中から4話を選びました。僕はたぶん日本一、本を発売する前に

# いちばん変わったのは、17歳くらいのとき 17歳という受験の時期に、 人生を変えようと思つたんですね

# ふふふ、おもしろい!

大勢の人間に読ませている作家だと思えます。

進藤 どういう人? 信頼している人?

水野 もう、信頼している人からしていない人まで。信頼していない人からは、悪意が飛んでくることもあるんですけどね。「ツマンナイ」のひと言で終わることもありますし。

進藤 今回は何人くらいに読んでもらったんですか?

水野 のべで言ったら1000人くらいいくかもしれないです。

進藤 ひえー。でもそんな大勢のいろんな意見が飛んでくると、どの段階で完成にしていいいかわからなくなりそう。ゴールはどこで見極めるんですか。

水野 これが、わかるんですよ。

進藤 いまだ! つて?

水野 直し続けていくと、一斉に「前のほうがよかった」って言われる瞬間があるんです。そうすると「あ、オレ、直し過ぎた!」ってなるわけです。

進藤 で結局、完成までほどのくらいかかりましたか?

水野 これはまる2年かけました。僕はいま、連載の仕事をとくにもっていないので、これ1本だけだったんです。だからこれすごく表紙はかわいらしいんで

すけど、僕の「売れる!」みたいな気持ちとかいろいろな念が入っているんですよ(笑)。

この自信のなさが自分を支えている気がします

進藤 出版されてうれしかった反応は。

水野 「すごく笑えて感動できた」。あとは「子どもに読ませたい」という人が大勢いて、うれしかった。「夢を」が売れたときも思ったことなんですけど。

進藤 『夢を』は結局、何万部売れたんですか。

水野 190万部くらいかな。それでも世のなかの人は意外に読んでいないんです。人と会っても『夢を』を読んでいない人がほとんどで、それも当たり前前なんですけど。それほど活字というのには読むのたいへんなんだなとあらためて思っています。

進藤 ふむふむ。

水野 ただ、活字にしかなできないことってあるんです。それは1対1で語れるということ。映像なら絶対ありえないですけど、本であれば4ページくらいセリフが続いても意外と読めたりする。そういう1対1のサシのト

ークってなにか伝えるうえで最も適していると思うんですよ。



進藤 なるほど。

水野 だけど『夢を』でも読むのたいへんだったという人がいて。だつたらもつと読みやすくイラストを入れて、短くしてオチがある話にしてということを考えながら書いたんです。

進藤 ブログも拝見させていただけました。ひとりですき出してしまつて。あれは水野さんの文章テクニクなのかしら。読み進めていくうち、どんどんハマつてしまふ。

水野 なんですしょうね、僕にはよくわからないなあ。でも自分には向いているように思います。僕は、自分がどう見られているのか、おそれているところがあるの。

進藤 ほんとうに? そういうかたはブログなんてこわくて手

が出せない気がするけど。

水野 いや、逆にたつた1行がすぐに書けないんですよ。要するに「パスタを食べた」って書けないんです。進藤さんなら「お? なにパスタだ?」って人は思いますよ。カルボナーラか、めんたいパスタか。でも僕だと「水野の食ったパスタなんかに聞いてね!」ってなる。だからこそ、僕はパスタをどうしたかつて話ですよ。仮に「パスタが今日は食べられませんでした」なら、まだ書けるけど。つまり僕自身の価値をすごく低く見積もっているぶんだけ、自分の話を書くならおもしろくせざるを得ない。

進藤 より、内容を練る!

水野 「僕みたいなもんが……」って思いがあると、普通の話は

書けなくなるんです。そういう意味では『四つ話』もそう。「僕みたいなもんが」って思いがあるのそのぶん、おもしろくて泣けて役に立つみたいな、いろいろな要素が入らないと読んでもらえないと思うんですよ。

進藤 ふむ。

水野 やっぱ、僕の場合はこの自信のなさが支えていますね。いま、しゃべつていて思ったんですが。

進藤 おもしろい(笑)。

水野 だから、哀しいブログなんでしょう。見た目は笑えておもしろいんですけど、その裏側には哀しい水野の業があるんです。進藤 そうだったんだ。すみません、笑うばかりで、その哀しみにはまったく気づきませんでした(笑)。



# 僕の場合、この自信のなさが自分を支えていますね

いま、アトリエで作家を6人育てているんです

進藤 今後の夢、野望は。

水野 よくいうのはテーマパークをつくりたいということ。テーマパークというより博物館みたいな、修学旅行で行けるような、教育といっしょになったものですね。たとえば最近、クルマの免許をとるのに人命救助の講習があつておもしろかったんですよ。AEDの使いかたを習ったら、AEDを買いたくなくなったくらい。万が一そんな場面に遭遇して人の命を救えたらめっちゃカッコイイじゃないですか。進藤 たしかに、たしかに。

水野 あれをゲームにできない

かつてのこと。人命救助用の人形が出てきて、それを救助できるとポイントが稼げるみたいな。

進藤 いいですねえ(笑)。

水野 大事な知識とエンターテインメントを組み合わせる。そういうアトラクションを僕は何種類も考えていて、どこかのタイミングでやりたいなと思ってるんですけどね。あとは教えの入ったプラネタリウムとかジェットコースターとか。

進藤 それもおもしろそう。大人も対象ですか？

水野 もちろん大人もできますし、号泣させる予定です。アトラクションからみんな号泣しながら出てくるのがいいな、と。

進藤 アハハ。絶対行く！ 何

年後くらいに実現させましょう。水野 40歳からは着手したいですけれどね。だからあと5年後くらいにはやりたい。これは、誰もが喜べるものなので、いつかかならずできると思いますね。

進藤 プライベートでの目標は。

水野 プライベートかあ……そうか、でも全部仕事になっちゃうんだよね。たとえばいま、原宿にアトリエをつくって人を育てているんですよ。6人くらい。作家を育ててみようかと思つて。作家とかクリエイターって基本、人に育てられるものじゃないじゃないですか。だから、そんなの絶対無理だよとも言われましたけど、そんなこともないだろうと思つて。みんな光るものをもつ

ているんです。それでずっと彼らのことを見ていて、いつしよにごはんを食べたり。

進藤 わあ、合宿だ。

水野 ごはんは、僕は木曜日担当なんです。

進藤 自炊？ 水野さんもつくるの？ 水野塾ですね！

水野 「水野先生のカラアゲが食べられるのはここだけだよ！」とか言いながら(笑)。

進藤 お若いからばかり？

水野 若いやつから、30代のやつもいるし。会社員や放送作家、ニートみたいな人もいます。いちばんうれしいのは彼らがベストセラーを出すことです。ヘタしたら、自分の本が売れるよりうれしいかもしれないです。

## 水野敬也

MIZUNO KEIYA

作家。愛知県生まれ。慶應義塾大学経済学部卒。著書に累計190万部突破のベストセラー『夢をかなえるゾウ』(飛鳥新社)、『雨の日も、晴れ男』、『美女と野獣』の野獣になる方法』(ともに文春文庫)、『大金星』(小学館)、『ウケる技術』(新潮文庫、共著)がある。また、DVD作品『温厚な上司の怒らせ方』(ビクターエンタテインメント)の企画構成・脚本や、漫画『地球くん』の企画・原案を手がける。公式ブログ「水野敬也のウケる日記」も好評。<http://www.mizunokeiya.com/ukeru/>

## 幸せになるための「4つの秘密」

### 『四つ話のクローバー』

会社や学校では教えてくれない、幸せになるための4つの秘密とは？4編の物語から見えてくる幸運のつかみかたをチェックしよう。文響社刊、定価1500円。



## 仲品 追

水野さんがこよなく愛する存在が「トイ・ストーリー」などを手掛けたジョン・ラセター監督です。なんでも「ウォルト・ディズニーの死後も理念を受け継いでいてすばらしい」とのこと。私が以前、この対談でラセター監督にインタビューしたことをニヤニヤしながら自慢すると、「いいなあ」を連呼されました。その様子を見ていると、ますますイジリたくなっちゃいました。トボけたふうでいて、とっつても素直な水野さんとの心地よいひとときでした。